

会員報告 第5班 平成23年4月9日(土)～4月17日(日)

○会社名 名工建設株式会社 (報告会発表文から)

参加した方(4人: ^{たかはし}高橋 ^{みつる}満 ^{まつおかやすひろ}松岡康弘 ^{くしだたけし}櫛田武士 ^{きとう}木藤 ^{ひさし}寿の皆さん)

私たちは4月10日から実際に現地の方に派遣をされました。第5班として派遣されたものですが、私らの方も4社、石田組さん、木村建設さん、藤城建設さん、それから名工建設という4社で行きました。

今回、私ども名工建設で活動したのは、先ほど説明がありました4班の矢作建設さんの作業の引き続きということで相馬市と南相馬市の境の所で作業をしておったのですが、作業の内容は矢作建設工業さんの方の内容とあれを引き継いで、順番に水位を下げて、そのまま当班では終わらずに、その後、徳倉建設さんの方に引き継いだというような格好で、同じような内容を報告してもしようがないかと思しますので、今回、派遣を受けて現地に行って感じたことを話したいと思います。

まず、今回の派遣で事前に協会の方の説明会があったときは、私らが派遣される場所は仙台空港だという話を最初は聞いておりました。その途中から福島県の相馬市という情報を聞きまして、矢作建設工業さんの方にも連絡を取らせていただいて、現地の状況とか、一番心配をしていたのが福島原発に近いものですから放射能のことが非常に心配で、その辺がどういう状態なのか聞きたかったものですから、その辺を何度か矢作さんにご迷惑だったと思いますけども連絡をさせていただきました。矢作さんの方も現地で、福島県からでしょうか、放射線測定器を借りていただいて、数字を見ることで安心できるような状態を作っていただいたものですから、それを受けて私らもとりあえず安心な状態で行くことができましたと感じています。

これも矢作建設さんから連絡をいただいて、夜中に走って現地に着いてそのまま朝から作業ではえらいですよと聞いていましたので、私らは前日に走りまして、約12時間くらいの時間を要して走りまして、東北に着いて向こうで1泊して朝を迎えたという格好で、かなり体的にも楽でありましたし、震災から1カ月近く経っていましたので現地の状況もかなり改善されてきたと聞いていましたので、そういうような状態で現地に着きました。

着いた次の日の朝、向こうで打ち合わせをして、石田組さんと名工建設が福島県の相馬市、木村建設さんと藤城さんが東松島の方に派遣ということになって、そこで分かれてしまったものですから、木村建設さんと藤城さんの方の細かい作業内容はわからないのですが、私らの相馬市の方は仙台の打ち合わせをした所から約1時間半くらい車でかかったんですかね。最初、仙台の街の中はいくらか家屋に地震の影響があったのですが、仙台空港に近づくとつれて今までに見たことのないような被害の状況を目の当たりにしまして、ものすごい衝撃を受けました。

その中で一番記憶に残ったのが、私ら建設業が作っているコンクリートの構造物、簡単に壊れるものじゃないだろうというもの簡単に破壊されているところを何カ所か見まし

た。すごい力が働いたんだなと感じたのを、今でも記憶しています。

現地に着くにつれ、高速道路を走って一般道に下りますと、被災を受けた方が一生懸命片づけているのを目にしますので、なかなか見れないというか、そういうような感じではありました。

それから、作業中は矢作さんの作業をそのまま引き継いで排水作業をしていたのですが、私どもも矢作建設さんのところで出たように余震が何度かありました。1度かなり大きな余震がありました。ちょうど5時過ぎで作業を終わらして、国土交通省さんの方に作業の終了の連絡をして、車に乗って帰ろうというときに地震があつて、すぐ避難をするということで、先ほどの矢作建設さんの写真のように何もない所で、唯一残っているのが壊れてしまった排水機場でありまして、その屋上に周りの人間と声をかけ合いながら、同じ場所東北地整さんの方の派遣隊もいましたので、約15～16名が建物の上に避難しました。最初のうちは電話も通じたのですが、すぐ電話も通じなくなって、ラジオの情報だけで今の状態を確認しているというような状態が続きました。その中で津波の警報、注意報が出ているということを知り、海の方を見ると白波が立っていたので、そのときは、皆さんがいたのでまだよかったのですが、同じような津波が来るのかと感じました。そのときの情報では震度6弱くらいと聞いていましたが、震源地がどこかはまだわからなかったものですから、今までに名古屋地区では感じたことのないような揺れも感じましたし、津波というのをラジオで聞いて目の前の海で白波が立っているのが見えたものですから、非常に恐いと感じました。

1時間半くらい避難していたら解除になりまして、その頃から電話も通じるようになりまして、国土交通省の担当者の方からも連絡がつくようになって避難解除で問題ないようですよということで、それから帰ったという記憶があります。

それから、私ら名工建設としては名古屋の会社に連絡して会社の方から宿舎を探してもらって、ちょうど派遣された相馬市の近く、松川浦という地区で宿舎が見つかりまして、そこに泊まりました。松川浦は津波の被害をかなり大きく受けていたのですが、その宿舎は私らが再開後最初のお客ということでありまして、建物自体は津波の影響が数メートル先で止まったぎりぎりの所で、周りは船とかが道路の横にどけてあつたりするような所でした。支援に来られた方が泊まれるようにということで、その女将さんが宿を開いてくれて泊まらせていただいたということで、非常に親切にいただきました。支援に来たことをすごく感謝され、すごく親切にいただいたことが記憶に残っています。私らもそのときは感謝をしました。

宿舎から現地までは20分くらいでしたが、毎日同じような道を通っていくのですが、1カ月くらい経ってからの派遣だったのですが、いくらかはお店はやっていましたが、お店に入ると物がなくなるとか、昨日やっていた店が今日はやってないとかいうところも結構ありました。日に日にお店の中の物資も増えていきますし、前の日に道路の凹凸があつた所が次の日はきれいに直っているのを見まして、復興に向かう力はすごいなと現地にいて感じ

たことが記憶に残っています。

今回、このような震災の支援に派遣していただいて、これから自分たちの仕事に何らかの影響があるのではないかと。すごくいい経験をさせていただいたと感じました。

以上が報告になります。

○会社名 株式会社 石田組

参加した方（2人：^{ないとうまさのぶ}内藤正信 ^{あべひろあき}安部浩章 の皆さん）

平成23年4月10日から17日午前中迄、福島県相馬市八沢排水機場にて、排水作業の照明車の担当として支援業務に向かいました。

本社を出発する迄、準備期間があまりありませんでしたが、愛知県建設業協会からの情報や先発隊のオカシズ様よりの現地状況や必要な物を伺う事が出来大変助かりました。

集合地である愛子防災除雪ステーションから作業地へ向かう間、今までメディアを通じて見た未曾有の事態・光景を目の当りにし、地震・津波の怖さを改めて思い知り、車中同行した二人の中で言葉は出ませんでした。

復旧支援地の八沢排水機場に到着し、先発隊のオカシズ様より引継ぎ及び照明車輛の始動・作業手順を教えて頂き非常にわかりやすく、また手順書は中部地方整備局様が用意して頂いておりましたので、初めて扱う者としても支障なく操作することが出来ました。

食料・給油については、震災から約1ヶ月経過しておりましたので特に不自由なく入手でき、また道路の状態においても主要な道路(高速含め)もほぼ復旧されており、特に支障はなかったです。

また支援地で有り難かったのは、食事や休憩等の際に利用できる待機支援車輛・仮設トイレが配備されていた事です。(テレビ・電子レンジ・冷蔵庫・ポット・ガスコンロ・仮眠用ベッド等装備)

作業期間中怖さを感じたのは、余震が頻繁に起ったことです。最大震度6弱を含め期間中数10回起こり、海岸に近かった事もあり津波注意報が発令された際、建物屋上への避難や余震が続く為、一時現地退去もあり地震の怖さを実感しました。また原発から30数キロ地点での作業の為、測定値を着けての作業でしたので放射能の怖さも感じました。

排水作業も次の班への引継ぎ時には、かなり水もはけ、未だ行方不明の方々の捜索も自衛隊・警察により大規模に始められ、一人でも多く見つかる事を祈りその地を離れました。

復興へ向け、まだまだ支援は必要だと思います。今後も要請があれば、積極的に参加していきたいと思っております。

○会社名 木村建設株式会社

参加した方（4人：^{すぎうらもとゆき}杉浦基之 ^{やましたひでお}山下英夫 ^{みわのぶのり}三輪信徳 ^{いけだこういち}池田浩一 の皆さん）

まず移動距離ですが、特に問題はありません。ただ、今回の様に13時間近く移動に掛かった為、活動日+前後移動日が欲しかったです。

次に現地での活動内容ですが、排水ポンプ車の管理ということで、4名で2班昼夜管理をしたわけですが、緊急避難場所の説明が海側でしたので、やはり心理的にも山側の高台に設定してもらい各社活動場所から直接避難する方が良いと思いました。

次に活動場所の事ですが、今回仮設堤防の上から排水ポンプ車の管理をしましたが、潮位の上下があり、満潮時には堤防天端から10センチのところまであがり、部分的にクラックが入り万が一の為に車両に乗り込まないようにしていました。こうした情報も欲しかった一つです。

今回私たちはタイミング良く宿が取れましたが、日中の仮眠では旅館側の修理が始まったりしたので、睡眠不足の日が多かったです。あと状況報告の連絡方法ですが、各業務班へ防災無線機を貸与してもらい現場の状況変化や不足資材等の報告を現地基地局へ集約し、そこから中部地方整備局及び建設業協会が整理して、次の支援班へ報告説明する体系を構築すれば、説明会時の情報がもう少し綿密になると思います。

しかし、被災された方々には申し訳ありませんが、こうした情報は実際経験してみないと盲点は発見できないと思います。よって、中部地方整備局並びに愛知県建設業協会始め、我々業者に於いても今後の災害時の活動への「糧」となっていくと思います。

○会社名 藤城建設株式会社 1

参加した方（4人：^{いまいずみ まこと}今泉 誠 ^{なかがみまさひろ}中神正博 ^{やすだふみひこ}安田文彦 ^{はやし ひろやす}林 弘康 の皆さん）

現地で我々は名工さんともども4班で作業していたのですが、名工さんの方からも当時の状況、話がありましたが、ちょうど4月10日、月曜日でしたか、雨も降ってくる中、ポンプ車の操作をしていました。

ポンプ車のメンテナンスというのですか、せっかく支援に行ってメカニカルトラブルで支援活動ができないというのが一番情けないと現地で思いました。ポンプ車を操作しているときにキャプタイヤの接続個所が、防水対策はしてあったんですけども、気温の変化についていけなくて、結露して漏電をしていたため何度も何度もブレーカーが飛んでしまっって、排水作業ができなかったということがありました。国土交通省さんからアンケートが来ていますので、それにはコメントを書いていますけれども、やはりそういったメカニカルトラブルでせっかく支援に行って悲しい思いもしたものですから、そういう部分の対策を。

いろいろな各メーカーのポンプ車、対策支援車もあろうかと思えますけれども、今回いろ

いろいろな業者さんからそういうコメントがたぶんアンケートで来ていると思いますので、そういうものは早急に対策されて今後活かしていただければと思っています。

簡単ですけども、そんなコメントだけ。私は現地でもものすごく悲しい思いをしたものですから、この場で言うておきたいという思いで発言させていただきました。

○会社名 藤城建設株式会社 2

3月11日に発生した東日本大震災時には地元豊橋市内で、愛知県発注の舗装工事をしておりました。その後、検査も無事終え、4月の初めでしたか、会社の統括部長より「愛知県建設業協会より今回の震災について協力要請をうけたので、現地へ支援に行ってくれないか。」といわれました。その時、正直今現地に復興支援に行けるのは自分しかいないと判断し、即座に返事をしたことを、今でも覚えています。年度末を過ぎ、休暇を少し取る予定でしたが、家族兄弟に復興支援に行くことを連絡しました。家族の反応としては、やはり思ったとおり「なぜ今、あなたが行かなければならないの？」とみんながみんな同じことを言いました。翌日から、現地へ出向く為の買出しや必要な物の準備をし、運行ルートを選定や旅費の計算などあらゆることを想定し準備をして向かいました。事前に愛知県建設業協会より情報の入手をしておりましたので、少しは安心でしたが、予想とは裏腹に現地に到着して見ると、それは「この状況の中で我々は何が出来るのだろうか？」と思わせる悲惨な状況でした。しかし、やらなければならない使命感でいっぱいでした。

支援活動中、思わぬトラブルが発生し、作業が一時中断することもありました。それは、支援活動をしている排水ポンプ車が動かなくなったことです。エンジンを停止し点検後再起動を掛けたが、ポンプが動かない。直ぐさま、テックフォースの中部地整の担当官に連絡を取り問題にあたり、賞味2時間近く時間を費やしました。トラブルの要因としては温度変化と湿気による結露が原因でした。最新式の機械を投入しての支援活動もわずかな湿気が原因でトラブルを招くとは思いませんでした。その2時間余りが凄く長く感じ、我々がここ東北石巻まで来てメカニカルトラブルにより何も出来ないことが、歯がゆくまたつらかったです。我々も現地へ出向く時には、事前に必要であろう食料や、飲料水を相当数積込んで支援活動場所へ行ったのですが、今思えば、現地の方々に支援物資として提供してあげれば少しは役立てたのではなかったかと思いました。支援活動を終えてから、愛知県へ戻ってからもニュースを見ると、今だ飲料水等が不足している状況を耳にすると残念でなりません。ただシステム上、支援物資が窓口を通しての配布となることを後で知り現地で不自由している方々を目の当たりにすると難しいことなんだなと感じました。

短期間の支援活動ではありましたが、この活動が今後、この地方で発生するであろう東南海・東海・南海大地震で何かしら役立てればと思います。

東日本の1日も早い復興を願っています。

(各社の活動)

